

休眠預金活用事業 支援対象活動計画書(詳細版)【2024年度 支援対象団体】

団体基礎情報		
団体名	ふりがな	たぶんかきょうせい・みんな・フレンド・とくしま
	多文化共生・みんな・フレンド・とくしま	
団体所在地	郵便番号	770-0804
	住所	徳島県徳島市中吉野町 3丁目72-3(一社) 白鳥の森事務所)
主な活動地域		徳島県内全域

外国ルーツ受益者受け入れにあたっての自団体の活動と課題について		
団体による外国ルーツ受益者の受け入れを行いたい活動について		
既に実施している支援内容	外国ルーツ住民の実態把握と個別のつながりきかけづくり	
今後実施していきたい支援内容	外国ルーツ住民と日本人のつながりづくりと多文化対応主流化に向けた協働事業の展開	

27 字

団体の活動によって外国ルーツ受け入れの際の課題を教えてください。 団体内の外国ルーツ受け入れて感じる、あるいは感じそうな課題		
	課題	詳細
	① 外国ルーツ住民実態把握	日本社会とつながっていない外国ルーツ住民が、どこでどのように暮らしているか、十分にわかっていない。個々の関係性を広げながら、エスニックコミュニティとの関係性を構築し、関係者マップを作成する等、総体的な実態把握が必要である。
	② ニーズ把握	外国ルーツ住民がどんなことで困っているか、困りそうか、徳島の生活に何を望むか、予防的支援に資する活動展開に向けたニーズ把握が必要である。
	③ 外国ルーツ住民とのつながりが希薄	地域が外国人の受け入れ・触れ合いに慣れておらず、地域の中で分断が起きている状況がある。
支援している分野で外国ルーツを受け入れる課題、課題となりそうなこと	課題	詳細
	① 外国ルーツ当事者・コミュニティとの信頼関係構築	地域で日本人住民と外国人住民の双方が歩み寄りするために、個別の信頼関係をもとに幅広い支持を得ていく必要がある。
	② 外国ルーツの文化慣習・制度等への配慮	外国ルーツ特有の文化慣習に配慮が行き届かず、適切な対応が取られないことで人権蹂躪につながる可能性がある。
	③ 分断・すみ分け	外国人支援は、通常の住民サービスから切り離されて考えられる傾向がある。日本人住民と同等にサービス享受する存在であるという意識啓発と対応ノウハウの主流化が必要である。

活動支援プログラム参加について	
団体の組織上・活動上の課題 * (400字以内)	
当団体は、外国ルーツ住民を包摂した地域づくりを共通のビジョンとする 3名で構成されるが、現状は組織化や予算確保に至らず、ボランティアベースの活動にとどまっている。徳島・四国では外国ルーツ住民が散在的に増加する一方、専門相談機関は必ずしも外国人対応を前提としておらず、支援に繋がりにくい課題がある。そこで日常的に地域の日本人ー外国人住民が歩み寄り、協働する活動の検討が肝要である。また DV支援専門団体との協働を通じ、専門相談機関における外国人対応の主流化を図る。そのために社会的インパクト評価に基づく事業設計により連携モデルを模索するとともに、団体の組織基盤を整備する。それにより、地域に暮らす外国ルーツ住民のためのセーフティネット強化としての、外国人対応主流化に向けた働きかけ・具体化が可能となると考える。	

353 字

活動支援プログラムで受けたい支援内容		
優先度		具体的なご要望があれば
1番目	組織運営支援	▽参考事例となる先行団体の組織形態及び活動の紹介 ▽将来的に申請・活用可能な財源・助成事業等の紹介 ▽専門家及び活動支援団体 PO による座学研修及び個別伴走サポート： 規定類（倫理規定、リスク管理規定等）及び管理体制の整備、組織の中期計画策定会計・経理業務の体系化等の資金管理体制整備 専門家による座学研修の実施。座学研修後は各団体の事業や活動地域、環境に沿った社会的インパクト評価設計のための調査設計・実施・分析・考察の一連のプロセスを個別伴走サポート
	社会的インパクト評価支援	
2番目	事業実施支援	
	広報・ファンドレイジング支援 つながりづくり支援 その他	

活動支援プログラム終了後について	
本活動支援プログラムへの参加から上記の想定を実現した場合の短期・中期・長期アウトカム(事業や団体の活動の成果)を記入してください。	
短期アウトカム(成果)	▽法人化の目的がっている。事務局スタッフを 1名以上置き、事務局運営のための基盤が整う。 ▽外国ルーツ住民の抱える課題が早期発見され、外国ルーツ住民ー日本人の平時からのつながりづくりに寄与する活動メニューが1つ以上ある。 ▽活動を実施するための予算獲得の目的が付いている。 ▽DV被害支援における外国人対応の主流化に向けたアクションプランが具体化されている。
中期アウトカム(成果)	▽1つ以上の事業委託し、自主運営ができています。 ▽外国ルーツ住民と地域社会とのつながりづくりが仕組み化され、交流活動の創出や地域防災等の地域づくりに向けた協働が起きている。 ▽外国ルーツ対応の DV被害者支援の知見が構築され、適時・適切な支援を受けられる受援者が存在する。

長期アウトカム(成果)	▽DV被害者等の相談支援領域の関係者が、外国ルーツ対応のノウハウを習得し、対応に生かしている。 ▽外国ルーツ住民－日本人の交流の機会が増え、双方がエンパワーされ地域づくりの協働が展開されている。 ▽団体が取り組んできた、外国人対応主流化による地域セーフティネット強化のための手法や開発・仕組みづくりに資するノウハウ等が、モデルとして他地域にて活用されている	
-------------	---	--